

研究部会紹介

◎カリキュラム部会

学会設立の趣旨を踏まえて、保育者養成の根幹ともなる「カリキュラム」（教育課程）をテーマとした会員の研究交流・共同研究の拠点として、これを設立するものである。学会設立の趣旨を踏まえて、保育者養成の根幹ともなる「カリキュラム」（教育課程）をテーマとした会員の研究交流・共同研究の拠点として、これを設立するものである。従来からの保育者養成カリキュラムの制度上の歴史をたどる作業を進めながら、養成校のカリキュラムの現状と課題を掘り下げて行くべく、部会員間で情報交換・意見交換を始めている。特に、①幼保一元が進められる中で、教育としての「幼児教育」と福祉としての「保育」をいかに養成課程の中で理念的に融合できるか、②法令等により養成課程は一定の共通性が担保されている一方で、輩出する保育者の個性にも直結するであろう各養成校の独自性や個性がどのようにカリキュラム（正課科目単位、正課外活動、各科目内での取組など）にデザインされているか、といった点にも、部会の関心が広がりつつある。

【部会長】大佐古 紀雄（育英短期大学）

◎実習日誌部会

昨今、保育者の資質を高めることが求められている。その方法としては、保育を省察し言語化するという行為が保育現場において一般的であろう。その視点に立ってみれば、保育者養成における実習日誌の見直しも必要なのではないかと考える。そもそも「日誌」は、子ども理解・保育者の援助を理解する一助となるが、日本全国それぞれの養成校で独自のものを使用し、その形式は一様ではないのが現状である。そこで、実習日誌について、日誌の形式や指導方法等を検討し、よりよい保育・教育実習、保育者養成に繋げていくことを目的としている。

【部会長】山下 佳香（川村学園女子大学）

◎実践研究検討部会

乳幼児の教育・保育の質の向上を目指していく上で、実践者と研究者がそれぞれに、もしくは協働して保育研究や実践研究に取り組むこと、またその成果を公表していくことが必要であると考え。本部会では、「実践研究とは何か」「実践研究はどうあるべきなのか」を問うと共に、乳幼児の教育・保育の質の向上に貢献するための研究手法や実践データの整理の仕方、研究論文としてのまとめ方を検討することを目的とし活動している。

【部会長】中橋 美穂（大阪教育大学）

◎授業方法・授業展開部会

本部会は、「授業部会」の活動を引き継ぎ設立された。現在、保育者養成に関わる授業方法や内容について、質を保証する評価基準はなくその内容は各教員に任されている。そこで本部会では保育者養成校で実施される授業方法や内容の課題や改善点を整理検討することを目的として活動している。現在は、保育者養成校におけるカリキュラムマネジメントの授業方法について、検討している。授業

で用いる動画を作成し、その有用性について調査を行っている。定期的にオンライン、または対面で会合を持ち、メンバーが連携をとりながら研究を進めている。研究に必要な論文や文献研究を実施し、養成校教員の授業の質の向上に寄与することを目指して活動を行っている。

【部会長】桐川 敦子（聖徳大学）

◎特別支援教育部会

近年では発達障害への関心の高まりなどにより、特別な配慮を必要とする幼児に対する指導・支援、あわせて学級への支援に対する関心が高まりをみせている。一方、個別の指導計画や教育支援計画は、幼稚園等においては徐々に用いられているものの、小中学校の実施率と比して低い現状がある。このことを踏まえると多忙感が増す保育現場において、実践上の工夫、効果的な実践例、支援体制とその課題など現状把握を主にした研究が急務であると思われる。そこで、本部会では特別支援教育の研究者や実践者により、社会に寄与する研究知見の蓄積のために部会を設立する。

【部会長】守 巧（こども教育宝仙大学）

◎乳児保育部会

本部会は、2018年度より発足した特別指定研究部会「乳幼児保育部会」の活動を引き継ぎ、乳幼児保育の専門的事項の学問的背景及び保育実践の研究手法、指導法の充実に向け、社会的動向に基づいた論点を整理検討することを趣旨とし設立した。毎年学会で発表を行っている。部会メンバーは、お茶大子ども園の0歳児の1年間のポートフォリオをまとめたものを分析し、「今、この子は何を感じている 0歳児の育ちを支える視点」（ひかりのくに）を出版。昨年より「乳児保育フォーラム」を開催、乳児保育の重要性を啓蒙するため活動中である。

【部会長】大方美香（大阪総合保育大学）

◎認定こども園のカリキュラム検討部会

教育・保育を一体的に行い、幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持つ施設として誕生した認定こども園は、全国に普及してきた。多様な在り方の乳幼児が共に過ごす場である認定こども園のカリキュラムは、幼稚園や保育所とは異なる特性があると考えられる。本部会では、認定こども園のカリキュラムの特性や課題、可能性について探究する。

【部会長】宮里 暁美（お茶の水女子大学）

◎幼小接続研究部会

幼児教育から小学校教育への接続について、国内外で重要性が指摘されている。令和3年には中央教育審議会初等中等教育分科会に「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」が設置され、令和5年「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について：幼保小の協働による架け橋期の教育の充実」（審議まとめ）が取りまとめられた。全ての子供に格差なく質の高い学びの機会を提供できるよう、全ての関係者が立場を越えて連携・協働し、子供の多様性を尊重して幼児

期・架け橋期の教育の質を保障すること等が述べられている。本研究部会は、幼保小の現場における幼小接続に関する理解や実施状況を継続的に把握し、その変化や課題等を検討するとともに、より望ましい幼小接続の在り方について提案することを目的として**設立された**。

【部会長】掘越 紀香（国立教育政策研究所）

◎領域「環境」部会

本部会は、特別指定研究部会領域「環境」の活動を引き継ぎ、領域「環境」の専門的事項の学問的背景となる保育内容との関連を整理し、領域「環境」に関する動向及び論点を検討することを目的に設立した。部会では、領域「環境」に関わる要領・指針の変遷の整理、先行研究等（学術論文、保育者養成校テキスト等）の概観や養成校における領域「環境」科目のシラバスの内容を検討することを目的に活動を行っている。

【部会長】佐藤 有香（和洋女子大学）

◎領域「表現」研究部会

本部会は、2018年度より発足した特別指定研究部会領域「表現」の活動を引き継ぎ、領域「表現」の専門的事項について検討し明らかにしていくと共に、保育実践の充実に向け、保育者養成教育において教授すべき内容・方法を具体的に示していくことを目的とする。

【部会長】吉永 早苗（東京家政学院大学）

令和6年7月1日現在